

公益社団法人日本薬剤学会 2015 年度事業計画案

(2015 年 4 月 1 日から 2016 年 3 月 31 日まで)

はじめに

1985 年に任意団体として設立された本学会は、2015 年に創立 30 周年の節目の年を迎える。この間、2006 年に文部科学大臣より社団法人としての設立認可を 2012 年には内閣総理大臣より公益社団法人としての移行認定を受け、科学の発展とともに社会貢献を目指した活動を行うことが求められている。本学会の事業は定款に定める以下の各事業を総称して「薬剤学及び関連諸領域に関する情報提供及び啓発、研究の振興、調査研究並びに評価により、薬剤学の進歩とその成果の利用普及を図る事業」として認定を受けており、理事会は別紙に詳述するこれらの事業を、公益法人としてのガバナンス体制の下に実施する。

- (1) 学会設立 30 周年記念事業の実施
- (2) 学術集会、研修会、講習会等の開催
- (3) 機関誌、学術雑誌、その他出版物の刊行
- (4) 研究の奨励及び研究業績の表彰
- (5) 国内外の関連学協会等との連絡及び協力
- (6) 研究及び調査
- (7) 薬剤学に関する学識及び技術等の認定
- (8) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

基本方針

- 1 日本の薬剤学に関するサイエンスレベルの向上を図るとともに、新規医薬品の開発および医療現場における医薬品の適正使用への取り組みを推進する。
- 2 医学・工学をはじめとする関連諸領域との連携をより緊密なものとし、学際的な研究協力を推進することによって、製剤・DDS 等における新しい技術開発に積極的に参画する。
- 3 産官学一体となった活動を通じ、医薬品の有効性と安全性を担保するための規制上の問題に関して公益的な立場から提言を行う。
- 4 薬剤師の職能の向上を目指して、国際標準的な医薬分業を推進する。
- 5 学会活動の国際化を目指して、FIP (International Pharmaceutical Federation, 国際薬学連合) などの国際学会および他国の薬剤学関連の学会との協力体制を構築する。
- 6 薬剤学の知識・技術を基盤として、機能的食品や化粧品などの開発、適正使用への取り組みを支援する。
- 7 2010 年度より発足した製剤技師認定制度の社会的認知度を向上させるとともに、各企業への製剤技術の普及・伝承に注力する。
- 8 共通の研究目的等による分野横断的なユニットであるフォーカスグループによる活動を強化する。

公益目的事業 1「薬剤学及び関連諸領域に関する情報提供及び啓発，研究の振興，調査研究並びに評価により，薬剤学の進歩とその成果の利用普及を図る事業」

会長

- 1 APSTJ 2025 推進事業
 - 理事会主導により，日本薬剤学会のこれからのあり方“APSTJ 2025”の検討・策定を行う。
 - 日本学術会議が大規模研究のために策定しているマスタープランの推進についての検討を行う。
 - 国内外の関連学協会との交流事業を推進する。
- 2 国際標準医薬分業推進事業
 - 国際標準的な医薬分業（完全分業あるいは強制分業）への移行について，必要な情報を整理しつつ，実施に向けての戦略を立案し，関連団体と連携しながら行政への働きかけを推進する。

副会長総務担当理事

- 1 学会賞等表彰事業
 - 学会賞選考委員会
 - タケル&アヤ・ヒグチ記念各賞選考委員会
 - 永井記念国際女性科学者賞選考委員会
- 1.1 薬師メダル
薬剤学分野の科学・技術と薬剤師職能を統合化したシステム薬剤学に関して，卓抜した業績を有する者を理事会の推薦により表彰する。
- 1.2 学会賞
薬剤学，製剤学，製剤技術並びに医療薬剤学の発展に関し卓抜した業績を有する者を表彰する。
- 1.3 功績賞
本学会の運営・発展への貢献，薬剤学教育への貢献，薬剤学，製剤学，製剤技術並びに医療薬剤学の振興への貢献を行った者を表彰する。
- 1.4 奨励賞
薬剤学，製剤学，製剤技術並びに医療薬剤学の基礎及び応用に関し，独創的な研究業績を挙げつつあり，これらの分野の将来を担うことが期待される若手研究者を表彰する。
- 1.5 タケル&アヤ・ヒグチ記念荣誉講演賞（西暦偶数年度に実施）
故タケル・ヒグチ教授の薬剤学・製剤学分野における学問上，教育上，医療上並びに医薬品工業上の発展に対する偉大な功績ならびに故アヤ夫人の功を記念し，同記念荣誉講演の講師を表彰する。
- 1.6 タケル&アヤ・ヒグチ記念賞（西暦奇数年度に実施）
薬剤学・製剤学分野における学問上，教育上，医療上，医薬品工業上の発展に顕著な功績を挙げ，受賞を励みにして更なる活躍が期待される者を表彰する。
- 1.7 永井記念国際女性科学者賞
薬剤学領域において顕著な業績を挙げ将来も顕著な業績を上げることが期待される，国内外の現職の女性科学者を表彰する。
- 1.8 創剤特別賞
国際的に特に顕著な評価を受けた有形・無形の創剤を創成した者を臨時に表彰する。
- 1.9 優秀論文賞（西暦奇数年度に実施）
機関誌「薬剤学」および公式欧文誌"Journal of Drug Delivery Science & Technology"に掲載された優秀な論文の著者を表彰する。
- 1.10 製剤の達人称号
医薬品製剤技術の研究開発に長年にわたり従事し，高い技術を確立した者を表彰する。
- 1.11 国際フェロー称号
薬剤学関連領域で国際的に特に顕著な業績を上げた会員，本学会の国際賞を受賞した外国人研究者等を表彰する。
- 1.12 「薬と健康の週間」懸賞論文
「薬と健康の週間」への協賛として，薬学を学んでいる若い学生を対象に与えられたテーマについての論文を広く募集し，優秀な論文の著者を表彰する。

- 2 創剤開発・研究賞表彰事業
 - 旭化成各賞選考委員会
 - 2.1 旭化成創剤開発技術賞

国際的な製剤の品質に関する考え方の変貌に応える製剤・創剤開発の基礎及び応用に関するハード及びソフトの優れた研究を対象として表彰する。
 - 2.2 旭化成創剤研究奨励賞

製剤の機能化、最適な投与方法とそれに合った剤形開発、製剤の処方研究によって目標とする新規製剤の開発に顕著に貢献した者を対象として表彰する。
- 3 創立 30 周年記念事業
 - 本学会創立 30 周年にあたる 2015 年の第 30 年会において、30 周年記念シンポジウムを開催する。
30 周年の記念出版事業として、薬剤学会の歴史および大学・企業・医療の各分野の変遷をまとめた「薬剤学概史—私はこう見る 144 人による俯瞰図」を編纂・発刊する。

渉外担当理事

- 1 学生主催シンポジウム事業
 - SNPEE 実行委員会

薬剤学に関わる学生の研究室・大学間を超えた活発な交流と、口演能力や講演会運営スキルを涵養することを趣旨として、年会において学生主催シンポジウム「SNPEE*」を開催する。SNPEE では、未来の薬剤学発展を担う学生相互の深い理解と調和が、やがては創薬の革新を生み出す原動力になると捉え、“自らを顧み、自らを伝える”ことを根本のテーマとする。演者の学生には、自身の研究を広い視点に立って今一度顧み、その魅力を聴衆に十分に伝えるチャンスとして、この場を提供する。特別講演の先生をお招きし、本シンポジウムの講評と将来の薬剤学を担う若手研究者に向けてのメッセージをいただく。

*SNPEE: Student Network for Pharmaceutical Education and Evolution
- 2 広報委員会事業

学会ウェブサイトの企画運営等を通して本学会の活動の広報を行うとともに、会員の拡大のために関連諸領域の研究者への本学会のアピールを図る。また、国際的情報発信を充実する。
- 3 医薬品の包装と情報分科会事業

薬剤学を支える包装・情報に関し、専門の研究者・技術者が協議し、本学会会員に情報発信を行うことを目的に、年会において「医薬品包装シンポジウム」（「医薬品包装と ICT の融合による医療革新に向けて」）を開催する。
- 4 教育分科会事業

薬剤学に関わる教育問題について、専門委員が協議して提言を行う他、教育資料の企画、年会における「薬学教育シンポジウム」（「薬に関わる医療事故を防止するために薬学教育は何を行うことが必要か」（仮題））を企画実行する。

国際連携担当理事

- 1 英語セミナー事業

東西の括りを解消し、英語セミナーとし、高島由季氏（東京薬科大学）を実施委員長とする。

国際共通言語である英語での討議能力を養うため、訪日した海外研究者・国内の研究者等を講師として招聘し、講義・ディスカッションの全てを英語で行う Global Education Seminar を日本の各地区で企画する。
- 2 国際学会等協力事業
 - FIP（国際薬学連合）

FIP の Predominantly Scientific Member Organization として、Council Meeting で重要事項を審議する他、Section/SIG にメンバーを多数派遣する等、BPS の諸活動に積極的に参画する。
 - AFPS（アジア薬科学連合）

AFPS の Member Organization として、Executive Committee に役員を派遣する等、アジア地域における薬科学研究の発展に寄与する。

機関誌担当理事

- 1 「薬剤学」編集委員会事業
「薬剤学」誌の企画編集と「薬と健康の週間」懸賞論文の選考を行う。
「薬剤学」の引用率向上を目的に J-STAGE への掲載申請についてを実施し、原著論文については冊子発行と同時に公開し、他の記事については冊子発行の半年後から、全情報を公開とする。
- 2 投稿論文審査委員会事業
「薬剤学」誌への投稿論文の審査と、優秀論文賞の選考を行う。
- 3 学会誌出版事業
 - 3.1 機関誌「薬剤学」
「薬剤学」編集委員会の担当する依頼原稿と投稿論文審査委員会の審査による一般論文で構成される「薬剤学」誌を以下のとおり発行する。今期は英文論文の投稿促進を図る。
Vol. 75 No. 3 2015年5月1日発行
Vol. 75 No. 4 2015年7月1日発行
Vol. 75 No. 5 2015年9月1日発行
Vol. 75 No. 6 2015年11月1日発行
Vol. 76 No. 1 2016年1月1日発行
Vol. 76 No. 2 2016年3月1日発行
引き続き、冊子発行と同時に科学技術情報関係電子ジャーナル発行支援システムである「J-STAGE」に原著論文を公開する。
英文論文については、英文論文を受け付けることが可能であることから、積極的に投稿促進を図る。
 - 3.2 公式欧文誌「Journal of Drug Delivery Science and Technology」
JDDST への投稿については、昨年度構築した編集委員新体制にて進める。

書籍担当理事

- 1 出版委員会事業
本学会の事業に関連する書籍の企画編集を行う。
 - 1.1 30周年事業計画の一部として、記念誌（会員向け無償配布）編集委員会に協力する。
 - 1.2 薬剤学会フォーカスグループ（FG）の活動に伴う各グループの代表的テーマを総的にまとめたシリーズ書籍、および薬剤学専門用語集を出版することを新たに計画する。

技術担当理事

- 1 製剤技術伝承講習会事業
 - 製剤技術伝承委員会
製薬企業各社でのアウトソーシングの加速により、滅失が懸念されているわが国の製剤技術を次代の製剤研究者・技術者に継承するため、座学・実習の講習会を企画運営する。今期の開催予定は次のとおり。
 - 1.1 第17回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会
「経口製剤の製剤設計と製造法」
2015年6月11日-7月10日 名城大学名駅サテライト
 - 1.2 第9回製剤技術伝承実習講習会
「塩・Cocrystal のスクリーニング及び結晶多形、水和物のキャラクタリゼーション」
2015年9月頃を予定 東邦大学薬学部 習志野キャンパス
 - 1.3 第10回製剤技術伝承実習講習会
「口腔内崩壊錠を製造して評価しよう -3-」
2015年9月頃を予定 フロイント産業（株）技術開発研究所
 - 1.4 第18回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会
「非経口製剤の製剤設計と製造法」
2016年1-2月を予定 会場未定

2 製剤技師認定事業

- 製剤技師認定委員会

医薬品メーカー等において製剤に携わる研究・開発・製造担当者で、日常業務の遂行上必要とされる共通の基礎的かつ専門的事項及び法規・制度の学識を修得している者を「製剤技師」として認定する。第5回までの認定試験問題と解答・解説を1冊にまとめて、さらに分野ごとにポイントを加えた『製剤技師認定試験問題集（仮称）』の発刊を年度初期に行って、より受験しやすくしていく。また、被認定者の学会への入会を推進するとともに、これら認定製剤技師の企業内での職能・役割アップについて相互研鑽を図れる機会の提供を検討していく。

2.1 第6回製剤技師認定試験

2015年10月24日

慶應義塾大学芝共立キャンパス／神戸薬科大学

製剤・創剤セミナー担当理事

1 製剤・創剤セミナー事業

- 製剤・創剤セミナー実行委員会

大学・製薬企業・医療機関などにおいて製剤技術に関わる研究者・学生が一堂に集い、医療・薬剤学に関し、サイエンスとテクノロジーの観点のみならず刻々と変化する時代のニーズも合わせて議論する合宿形式の討論会「製剤・創剤セミナー」の企画運営を行う。

1.1 第40回製剤・創剤セミナー

「創剤の夢舞台 - ハイブリッド化する医療に向けて -」

2015年8月20-21日

淡路夢舞台国際会議場・ウェスティンホテル淡路

公開市民講演会事業担当理事

1 公開市民講演会事業

一般市民を対象とした公開市民講演会を企画・開催する。

FG担当理事

1 FG統括委員会事業

共通の研究目的等による分野横断的なユニットである各フォーカスグループ（FG）を統括する委員会として、事業・予算の管理を行い、各FGに対する助言やFG・理事会間のリエゾンを担当する。

- 【経口吸収FG】

経口吸収に関わる生体膜機能、吸収機構、体内動態、製剤化や臨床開発に至るまでの幅広い問題を統合し、新たな経口吸収研究を開拓する。今期は8月に合宿討論会を予定。

- 【がん治療FG】

抗がん剤の製剤的工夫に基づく新規治療法・治療技術に関する情報発信に努める。臨床薬剤師を対象とした活動にウェイトを置きたい。今期は医療薬学会でのシンポジウム開催を予定。

- 【経皮投与製剤FG】

化粧品、医薬品、生活化成品、素材メーカー、大学研究者など様々な分野の研究者を集め、経皮投与製剤の理論と実際を検討し、経皮投与製剤研究のさらなる活性化を図る。第7回シンポジウムは外用製剤協議会主催のTDDS世界シンポジウムと合同にて開催予定。

- 【経肺経鼻投与製剤FG】（名称変更）

医療薬学フォーラム2015/第23回クリニカルファーマシーシンポジウム(2015年7月4-5日、名古屋国際会議場)の中で、「吸入剤の基礎から臨床(仮題)」と題したセッションを経肺経鼻投与製剤FGとのジョイントシンポジウムとして設け(先方の了承済)、吸入療法の一層の発展を期し、大学、企業、臨床現場で吸入剤に携わる4名により、吸入剤開発の基礎研究、臨床で使用されている吸入剤の吸入特性評価、製薬会社における吸入剤開発の実例、吸入剤治療に関する臨床現場での問題点について講演していただく。

- 【核酸・遺伝子医薬FG】

遺伝子・細胞製剤に関連する極めて学際的な領域の情報交換のプラットフォームとして、関連諸領域と最新の知見を共有する。今期も核酸医薬、遺伝子治療、細胞移植治療などに関する最新情報の交換を行う予定。

- **【薬物相互作用 FG】**
薬物相互作用予測手法の問題点，最新予測手法の医薬品開発への応用に関する議論の場を提供する。今期は薬物相互作用に限らず，薬物体内動態の個体間変動を広く捉え，議論するためのシンポジウムを開く。薬物動態のみならず，製剤的な工夫による回避についても議論する場を提供したい。
- **【医療 ZD と調剤 FG】**
薬剤師が医師処方箋のレビューを含めた真の調剤を実践し，そのリスク管理により医療における Zero Defect が達成されるよう，医薬分立を基盤としたシステム・教育の構築を目指す。
- **【DDS 製剤臨床応用 FG】**
年会においてシンポジウムを企画し，DDS 製剤開発における課題について議論する。日本 DDS 学会学術集会での関連シンポジウムも予定している。また，メンバーの様々な経験や知識を共有化するため合宿討論会を開催し議論を深めるとともに「薬剤学」へのレポート寄稿等による情報発信を行う。
- **【PVM* FG】**
患者さんのための製品価値最大化(Product Value Maximization for Patient)を目的に，2014 年から小児製剤にフォーカスして各研究機関（新薬メーカー，ジェネリックメーカー，アカデミア等）が連携して小児製剤を開発する検討を行う環境基盤の向上を図り，製剤技術を駆使した小児患者志向性の高い製剤開発のための活動を行う。
*PVM: Product Value Maximization for Patient
- **【物性 FG】**
製剤の品質・有効性・安全性向上のための医薬品原薬，製剤原材料ならびに製剤の物性の評価・評価手法に関する調査研究，情報交換を行い，成果を踏まえた講習会の企画・運営により，若手研究者の研修・啓発・育成を行う。新規レギュレーション関連通達・ガイダンスなどについての規制当局への意見集約・コメント発信を行い，関連分野の発展を進める。
- **【臨床製剤 FG】**
従来医療機関内で調製されてきた院内製剤について医療機関，大学，製薬企業など様々な角度から議論し，今後の院内製剤のあるべき姿を考える。また同時に，医療現場で使用されている様々なデバイスに着目し，医療現場における使用性，デバイスの材質と薬物との相互作用について議論し，薬物治療の適正化に貢献するデバイスを提案する。
- **【粉体プロセス FG】**
固形製剤製造の基盤技術である粉体プロセスについて，プロセスの高効率化，製剤の高機能化，高品質化を実現するための理論，技術について討論し，製剤技術の向上を目指す。また製剤の達人や製剤認定技師との交流・技術伝承の場として合宿討論会を行う予定。
- **【製剤処方・プロセスの最適化検討 FG】**
製剤開発・プロセス開発時の Risk の洗い出しを行うとともに，計量化学的・統計的な手法で解決すべき（できる）課題を明確化した上で，解決に向けた標準的なプロセスを示す Mock 作成を目標として，製薬企業及び大学の研究者を中心としたメンバー（10 名程度）を編成し活動を行う。2015 年度は，Risk の洗い出しと解決すべき課題に関する講演会を 8 月に開催し，Mock 作成に向けた方針・道筋をつける。
- **【前臨床開発 FG】**
前臨床開発に関わる諸問題，例えば原薬形態の効率的な決定法，加速試験が困難な製剤の判断法，安全性試験の製剤設計などをテーマとして，学術内容にタイムラインやリスクマネジメントのビジネス視点を含めた議論を行うべく，シンポジウムを企画する。初年度は AAPS 年会とタイミングを合わせて，Orlando での開催を想定しており，またそのフィードバックを兼ねた国内開催のシンポジウムもしくは合宿討論会を行う。
- **【モデリング&シミュレーション FG】**
薬剤学領域研究を効果的効率的に推進できるモデリング&シミュレーション技術の動向を調査し，技術の普及を目指した活動を行う。今期は具体的な活動方針を定め事業活動を推進するための準備を行う。

年会長

1 年会事業

- 年会組織委員会

本学会最大の学術集会「年会」の企画運営を行う。年会では、口頭またはポスターによる研究発表、特別講演、招待講演、各種受賞講演、各種シンポジウム、ランチョンセミナー、企業展示会等の多種多様なプログラムを設けており、定時総会もこの会期中に併催される。また、昨年引き続きラウンドテーブルセッション形式での討論を行う。今期の開催予定は次のとおり。

1.1 30周年記念シンポジウム

「創薬・創剤の新たな方向性を探る」

2015年5月20日 長崎ブリックホール

1.2 第30年会

「薬剤学による医療イノベーション・創薬維新 - 30年の節目を迎えて -」

2015年5月21-23日 長崎ブリックホール、長崎新聞社ホール

学会運営

1 理事会

学会の業務執行の決定、理事の職務執行の監督等を行う機関であり、全ての理事で組織される。法人のガバナンスを担う中心的な機関である。今期の開催予定は以下のとおり。

第1回理事会 2015年4月頃

第2回理事会 2015年5月頃

第3回理事会 2015年9月頃

第4回理事会 2016年2月頃

2 評議員会および総会

総会は正会員で構成される、学会の最高の決議機関である。評議員会は総会に上程される全ての議案について審議を行う機関であり、評議員により組織される。今期の各開催予定は以下のとおり。

2.1 評議員会 2015年5月22日 長崎ブリックホール

2.2 定時総会 2015年5月22日 長崎ブリックホール

以上

収支予算書(損益計算ベース)
2015年4月1日から2016年3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会

(単位:円)

科目	公1	法人会計	内部取引消去	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	0	200,000	0	200,000
基本財産受取利息	0	200,000	0	200,000
特定資産運用益	300,000	0	0	300,000
特定資産受取利息	300,000	0	0	300,000
受取会費	11,500,000	11,500,000	0	23,000,000
正会員	6,380,000	6,380,000	0	12,760,000
学生会員	800,000	800,000	0	1,600,000
賛助会員	4,320,000	4,320,000	0	8,640,000
事業収益	58,720,000	0	0	58,720,000
学術集会・委員会等事業収益	53,700,000	0	0	53,700,000
参加費	34,980,000	0	0	34,980,000
助成金・補助金	2,050,000	0	0	2,050,000
寄付金・協賛金	1,870,000	0	0	1,870,000
セミナー共催金	2,000,000	0	0	2,000,000
講演要旨集等販売料	0	0	0	0
広告料	2,500,000	0	0	2,500,000
出展料	10,300,000	0	0	10,300,000
学会誌等出版事業収益	1,750,000	0	0	1,750,000
購読料	500,000	0	0	500,000
投稿料・別刷料	500,000	0	0	500,000
許諾料・使用料	300,000	0	0	300,000
広告料	450,000	0	0	450,000
学会賞等表彰事業収益	2,050,000	0	0	2,050,000
助成金・補助金	550,000	0	0	550,000
寄付金・協賛金	1,500,000	0	0	1,500,000
製剤技師認定事業収益	1,220,000	0	0	1,220,000
受験料	820,000	0	0	820,000
認定料	400,000	0	0	400,000
雑収益	168,000	0	0	168,000
雑収益	168,000	0	0	168,000
受取利息	0	0	0	0
経常収益計	70,688,000	11,700,000	0	82,388,000
(2) 経常費用				
事業費	86,198,273		0	86,198,273
給料手当	960,000		0	960,000
臨時雇入金	2,940,640		0	2,940,640
会場費	18,449,480		0	18,449,480
旅費交通費	5,100,000		0	5,100,000
会議費	4,650,320		0	4,650,320
関連行事費	8,702,000		0	8,702,000
賞状・賞牌・副賞費	3,996,800		0	3,996,800
通信運搬費	2,839,960		0	2,839,960
ウェブサイト管理費	774,000		0	774,000
消耗品費	385,720		0	385,720
印刷製本費	16,685,000		0	16,685,000
貸借料	1,628,268		0	1,628,268
保管料	250,000		0	250,000
諸謝金	5,682,033		0	5,682,033
租税公課	0		0	0
支払負担金	1,500,000		0	1,500,000
業務委託費	11,430,000		0	11,430,000
雑費	224,052		0	224,052
管理費		11,010,000	0	11,010,000
給料手当		960,000	0	960,000
旅費交通費		300,000	0	300,000
会議費		1,500,000	0	1,500,000
通信運搬費		1,200,000	0	1,200,000
消耗品費		200,000	0	200,000
減価償却費		100,000	0	100,000
印刷製本費		900,000	0	900,000
貸借料		300,000	0	300,000
租税公課		800,000	0	800,000
業務委託費		3,050,000	0	3,050,000
公認会計士報酬		1,200,000	0	1,200,000
雑費		500,000	0	500,000
経常費用計	86,198,273	11,010,000	0	97,208,273
当期経常増減額	-15,510,273	690,000	0	-14,820,273
当期一般正味財産増減額	-15,510,273	690,000	0	-14,820,273
一般正味財産期首残高	0	0	0	0
一般正味財産期末残高	-15,510,273	690,000	0	-14,820,273
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	20,000,000	0	20,000,000
指定正味財産期末残高	0	20,000,000	0	20,000,000
III 正味財産期末残高	-15,510,273	20,690,000	0	5,179,727